

函館児童雑誌コレクション及び北海道児童雑誌データベース

平成18年度収録作品概要

阿部かおり 菊地圭子 柴村紀代 谷暎子 横田由紀子

記述内容: 番号 雑誌名 巻号 発行年 冊数

1 蟻の塔 創刊号 1923/8 1冊

「子ども独特の創作品のみを発表する子ども雑誌」として大阪で誕生し、巖谷小波、西条八十を中心に作られた。創刊号の投稿者は大阪を中心に、西日本の子どもたちによる投稿が目立つ。投稿募集のジャンルは、綴方、童話、戯曲、童謡、作曲、和歌、俳句、笑話、自由画と幅広く、500近い作品が投稿されていた。

2 お月さん 1集 1923/2 1冊

大阪で発行された童謡雑誌で、所蔵している1集は8ページの冊子形態。野口雨情が作品を寄せ、他は投稿者の入選作を掲載している。投稿募集は、15才以下の少年少女の童謡を小島純が選ぶ第1部と、一般父兄の童謡を都外川淳と豊田次雄が選ぶ第2部とに分かれている。(編集後記から、豊田次雄は大阪毎日新聞社学芸部に所属していたと推測される)

3 お伽倶楽部 1巻3号 1911/10 1冊

主幹の久留島武彦は口演童話家、童話作家。巖谷小波、岸辺福雄と並ぶ口演童話三人男の一人として知られる。内容は久留島武彦、巖谷小波による童話、小説、伯爵や博士の体験記などが中心で、巻頭には皇室や外国の子ども、最近のニュースなどのグラビアを掲載。所蔵の号には「少年少女 雑誌の雑誌」と題した、同時期に発行された他の児童雑誌の内容を紹介するコーナーがある。

4 おはなし 1巻1号～3巻24号 1946/4/25～1948/6/1 22冊

童話雑誌で「読む童話であると同時に聞く童話」を目指して創刊された。自由建設社(札幌)の発行。奥付の編集・発行人は杉岡孝之だが、飯田広太郎が編集に関わり、北海道童話会の三浦一、本間留次郎などが編集同人であった。9号以降は奥田孝位が編輯主任となっている。発行部数は2000部。表紙は小学校教師だった繁野三郎の筆になる。

5 面白い理科 1巻4号～3巻4号 1929/8/1～1933/4/1 17冊

「子供の科学」を創刊した原田三夫が企画編集をし、主幹となって1929年にこども理学会から発行。執筆者は、「子供の科学」の編集長である松山思水、漫談家の徳川夢声、星の研究家である野尻抱影ら各科学分野の専門家および小学校の理科教師。軍事目的の理科教育から離れて、純粹に自然科学の面白さを児童に広める目的で創刊された雑誌。

6 面白世界 3巻1号 1914/1/1 1冊

紫明社発行。表紙・カットは漫画家の飯沢天羊。奇術や手品本の広告がある。内容は「滑稽お伽話」や「面白新聞」など軽い読み物のほか、少年小説や悲哀小説も載っている。読者欄にカット風の「正月漫画」がある。

7 海国少年 2巻8号～2巻12号 1918/8/1～1918/12/1 2冊

1917年4月の創刊だが、終刊は不明。海事思想の普及のために海国少年社（後に海国少年団）が発行。読者対象は中学生である。表紙、口絵は椛島勝一が描き、所蔵誌には「軍艦の沿革」など海軍関係者による話、軍事探偵、歴史小説、冒険実話、名士逸話などの読み物を掲載している。また海国少年団を組織し、1922年の発行部数は2万部と言われる。

8 快国民 1巻1号～1巻6号 1915/5/1～1915/10/1 3冊

国民実科大学院発行。青少年実業雑誌とある。国民実科大学院は農業実習講義と商業実習講義の講義録を出し、一種の通信制の実業学校の形をとっていて、本誌は講義録購入者の雑誌でもある。読者欄も農業科、商業科に分かれ、記事に「農園めぐり」や実業界の成功談などがある。

9 科学玩具 5巻2号 1932/8/1 1冊

カメラや鉱石ラジオなども扱う資文堂書店発行。所蔵誌は「海の科学」が特集名。内容は科学物の探偵小説や海の怪奇物語など。他に「模型の部屋」、相沢研一の「発明室」などの連載や、「読者紙上交換会」で模型製作品などを売り買いしている。

10 科学の日本 2巻3号～2巻5号 1934/3/1～1934/5/1 2冊

こども理学会で主事を務めた有坂勝久を代表とする日本科学協会編集の月刊誌。表紙は村上松次郎による。尋常小学校上級年以上を読者対象とし、120ページを超える内容。写真やグラビアを多用することによって科学記事、世界のニュース、実験方法、模型の製作方法などを詳しく解説している。執筆者は、岡部長節、藤五代策、大島正満、椽内吉胤ら「面白い理科」の面々と重なる。

11 学友 2巻1号 1914/1/1 1冊

学友会発行。編集・発行人は法学士で立憲帝国青年党総理の四元内治。執筆者は文学博士の中島力蔵や国語辞書「言海」の著者大槻文彦など。読者対象は中学校、高等女学校、農学校の名刺広告があるところから、中学生以上と思われる。内容は校外教育の発展についてなど硬い記事が多い。

12 家庭のローマ字 12月号～5月号 1917/12～1918/5 2冊

発行所であるローマ字ひろめ会は、西園寺公望を会頭に迎え「日本の言葉をローマ字で書くことを広めること」を目的とした会であった。大阪、仙台、秋田などに支部を持ち、全国各地に家庭ローマ字会があった（北海道は天塩）。全編ローマ字による童話などの読物と、読者投稿、支部の近況報告がある。広告もローマ字で書かれている。

13 カンショウブンセン ニネン(文園社) 7月 1927/2 1冊

1925(大正14)年6月に平凡社社主・下中弥三郎によって発行された生活綴方雑誌で、日本で最初の学年別学習雑誌。その後、1930(昭和5)年9月に「綴方読本」と改題され、発行所も郷土社に変わる。国内だけでなく、樺太、台湾、朝鮮、満州の児童にも広く愛読された。執筆者は教師のほか、浜田広介や北原白秋、小川未明、鈴木三重吉などの著名な童話・童謡作家の作品も多く掲載されている。なお、表紙タイトルは「カンショウブンセン」と「鑑賞文選」とがあり、前者は1,2年生、後者は3~6年生向けのもものと推定される。

14 北の子供 1巻1号~5巻1号 1946/4/30~1950/1 38冊

新日本文化協会(札幌)の発行。戦後生まれの児童雑誌の中では、最も長く誌命を保ち、道内の子どもたちに親しまれた。童話、童謡、郷土の記事など、道内の作家、学者、画家などが筆をとった。札幌に疎開していた百田宗治は作文の選評者として、梁川剛一は表紙絵や絵物語を描いて活躍。童話作家・和田義雄は、編集、執筆、そして専属の人形劇団などで「北の子供」の発行を支えた。

15 兄弟^{けいだい} 1巻1号~2巻2号 1909/6~1910/7 11冊

国学院大学出版部発行。編集・発行人は津田茂麿とあるが、実質は内海月丈。執筆者には小川未明、牧野富太郎、小山内薫、杉浦非水らがいる。読者対象は小学校上級生と中学校初級生。発刊の目的は「普通教育の側面的補充であり、国語教育、作文の修養、趣味の啓発を旨とする」とある。

16 兄弟姉妹^{けいだいしまい} 3巻1号~4巻8号 1910/9/1~1911/7/1 9冊

国学院大学出版部発行。編集・発行人は津田茂麿とあるが、実質は内海月丈。「兄弟」「姉妹」の発行によって欠損金が出たため、国学院院友会が発行の中止を訴え、その後、両誌が合併、「兄弟姉妹」として少なくとも1911(明治44)年7月まで発行された。

17 郷土満州 中級用 47号 1932/11/5 1冊

発行人は石森延男。発行所は大連の新童話社で、「新童話」と同時期の発行と思われる。「終刊号もくろく」とあるので、本誌をもって終刊となった。毎月1日、5日、10日の月3回発行された。他に、初級・上級用も出ていたと思われる。表紙は境一之。内容は石森が2編、「新童話」の同人である政本いさむや八木橋ゆじろも執筆している。

18 コドモ 21巻6号~23巻3号 1934/6~1936/3 16冊

コドモ社発行の月刊絵雑誌。創刊は1914(大正3)年1月。編集顧問に児童心理学者である高嶋平三郎、編集兼発行者は画家・木元平太郎。執筆者には川上四郎、田中良、河目悌二、浜田広介らがいる。季節に合わせた絵と短いお話を中心に、考え物や言葉あそびなど学習のページも盛り込まれている。

19 こども朝日 北海道版 7巻3号～7巻5号 1947/2/1～1947/3/1 2冊

大阪で編集の「こども朝日」に、「郷土色ゆたかな現地編集」（4頁・色刷）を挿し挟んだ形で発行。現地編集は朝日新聞社出版局北海道支部で、およそ4ヵ月の発行だった。高倉新一郎の「子供のための北海道史」や「冬の話」など力がこもった記事が多い。北海道の画家・田辺三重松、山田義夫、国松登が表紙絵を描いた。

20 子供ダイジェスト 1巻1号～1巻2号 1949/10/1～1949/10/15 2冊

子供ダイジェスト社（旭川）が月2回発行。創刊は1949年10月だが、終刊は不明。編集兼発行人は高橋貞俊。会員制で会員に配布した小学生対象の読み物である。16～20頁で、学校、スポーツなどのニュースと作文、詩などの投稿作品、童話などを掲載。創刊時には市内の小学校12校に通信員がいた。

21 子供タイムス 1巻1号～1巻8号 1931/5/25～1931/12/25 7冊

新聞「北海タイムス」の付録として創刊。講読家庭に無料で配布された雑誌で、同時期に「家庭タイムス」も付録として発行されている。編修発行人は阿部虎次で北海タイムス社（札幌）の発行。およそ1年、8号で終刊となった。名所めぐり、童話、漫画、学校だよりなどを掲載し、賀川豊彦、横山美智子らが寄稿している。また子どもたちの作文、詩、図画、習字などの投稿作品も掲載。桜井忠が投稿作文と童謡の選者を務めた。

22 子供と科学 1巻3号 1917/5/5 1冊

森重俊が編集・発行人となっているが、原田三夫が企画編集し創刊。執筆者には、小熊捍、大久保忠春、原田三夫、有島武郎、森於菟の名がみられる。11歳以上17歳以下を読者対象に、科学に関する事柄を興味深く説明した「実地の際の手引書」的な位置付けの雑誌。内容は、天文学、動物学、植物学、物理、化学、航空学、衛生学など科学全般にわたる。後に「少年科学」と改題するが一年余りで廃刊。

23 コドモ満州 2学年用 3巻7号 1933/7/1 1冊

24 コドモ満州 3・4学年用 1巻1号～4巻6号 1931/9/1～1934/3/15 40冊

25 コドモ満州 5・6学年用 1巻1号～4巻8号 1932/5/15～1934/4/15 19冊

旧満州（現中国東北部）で発行された児童雑誌。満州事変直前から始まり、撫順中学校校長の寺田喜治郎が監修、撫順の小、中学校教師が中心となり撫順国語夜話会を作り編纂。発行は月刊撫順社（後社名変更で月刊満州社）が行った。月2回、3グレード（後4グレード）を発行。創作作品には「赤い鳥」「コドモノクニ」等からの無断掲載が多く、時事的作品には国粹主義的な記事が目立つ。国内では国際日本文化研究センターが383冊を所蔵。

26 今世少年 日本男児 第3編 1902/3/21 1冊

前身は「学窓余談」（春陽堂・編集主幹石井研堂）だったが、大学館発行に変わり、編集・発行人も村上俊蔵となる。単行本形式の特集で各号に特集名がある。今号は「日本男児」、1号は「海陸軍談」、2号は「野蛮島」、4号は本誌予告に「海陸大探検」とある。内容は歴史物や軍人の活躍を描いた堀内新泉の読み物や、平民新聞などで活躍した原霞外の新体詩「日本男児」が載っている。

27 児童文芸 1巻1号～一周年記念号 1924/10/30～1925/11/1 5冊

純文芸雑誌をめざして創刊。編集発行人は佐野四満美で文芸運動社（札幌）の発行。編集同人に支部貞助（沈黙）、上杉勇次、加清たもつ、金の星社の塩谷羊友などが名を連ねている。同人の童話、童謡などを掲載。少年少女の投稿作文や童謡なども多く掲載している。

28 姉妹 1巻1号～2巻2号 1909/6～1910/7 14冊

国学院大学出版部発行。編集・発行人は津田茂麿とあるが、実質は内海月丈。「兄弟」の姉妹誌として発行された。御姉妹宮殿下として当時の内親王の紹介や各女学校優等生の紹介が写真入りで掲載されている。作品には少女小説の角書きが付き、三島霜川や藤澤衛彦が執筆している。1910年9月、「兄弟」「姉妹」が合併し、「兄弟姉妹」が発行された。

29 写真少年 1巻3号～2巻2号 1918/12/1～1919/2/1 2冊

株式会社東光園発行。秋好善太郎の編集・発行によるグラビア雑誌。海外及び国内からの写真記事を始め、読物、講談、戦争実話、科学解説全てに内容を実演して撮影した写真を掲載。葛原茲（しげる。字体なし）、藤川淡水、宮崎一雨等の執筆による。読者は北海道から九州、朝鮮、満州に及ぶ尋常1年から卒業生までであるが、誌上で輸入写真機や楽器、空気銃・ピストル等の販売仲介を行っている。「婦女写真」は姉妹誌。

30 健児の雑誌 ジャンボリー 9巻11号 1930/10/1～1931/7/1 2冊

「健児の雑誌」ジャンボリーには各県の少年団の報告や少年団日本連盟、東京連盟の野営の報告などを掲載。ボーイスカウトの機関誌と思われる。発行はジャンボリー編集部で、編修発行人は日野鶴吉。創刊は1922年頃と思われるが、終刊は不明。

31 小学キング 1号1巻～1巻2号 1926/3/1～1926/4/7 2冊

小学キング社（札幌）の発行。編集人は上杉勇次で、童話、科学童話、詩、歴史物語、動物の話などを掲載。作文、図画などの投稿作品も掲載されている。各地から少年記者を採用し、ニュースを提供させるなどで誌面を組んだ。終刊は不明。

32 小学少年 9巻11号～10巻1号 1927/11/1～1928/1/1 2冊

「小学少女」と同時期に研究社が発行。創刊は1919年5月で、1928年3月の終刊。小学校低学年を対象とした雑誌で、挿絵、絵物語などが多く絵雑誌を思わせる作りである。挿絵では河目悌二が多くを描いている。

33 小学生(大日本小学会) 3巻11号～4巻7号 1908/11/1～1909/7/1 6冊

発行人は山根千代。執筆者に男女高等師範学校各先生とある。内容は修身、唱歌、地理、歴史、理科、教育講談など教科副教材の役割を果たす。「小学生新聞」の欄に皇室関係の記事が多い。「小学文壇」に作文、新体詩など全国からの投稿が多い。

34 小学生(同文館) 1巻2号~1巻10号 1911/4/10~1912/1/1 6冊

葛原茲(しげる。字体なし)編集。1911年3月10日創刊。国定教科書練習帳とある。投稿作品を「小学生成績品展覧会」の欄に多数掲載。葛原茲は小学校訓導の後、11年から同誌の編集に専念。12年博文館入社。大日本小学会の「小学生」との繋がり不明。2巻10号より文教社が出版。

35 少女新聞 16号~29号 1917/9/15~1917/9/15 2冊

女学生対象の新聞で、編集人・石塚吉祐、発行人・島田義三で東京社の発行。B5判16頁で毎月2回発行され、全国各地で販売。女学生の健康や体育、マナーなどを掲載、少女文芸としてお伽噺、少女短歌、俳句などを掲載している。

36 少年 樗の実 2巻6号 1922/6/1 1冊

表紙は落谷虹児。野口雨情の童謡や歴史物語、松村武雄の童話、シベリヤ事実譚や、昔語り、こっけい物語、少年小説など総花的雑誌で総ページ数112頁。読者対象は「わが宝文館は入学準備書に就て最も長き歴史を誇る」とあるところから、小学校高学年向き。

37 少年国 1巻1号~1巻12号 1906/1/1~1906/6/15 12冊

編集人雨谷幹二。日露戦争の翌年から月二回発行。画家に富田秋香、谷洗馬。執筆者に黒田操山など。顧問格として賛成寄書家の名で巖谷小波、徳田秋声、泉斜汀など36名の名前が並ぶ。臨時増刊号の題は一等作文の題を用いている。

38 少年雑誌 1巻2号~1巻4号 1911/10/1~1911/12/1 3冊

発行は増沢出版社。表紙画は岡野栄、挿絵は太田三郎、平尾良正、片山春帆、代田牧一など。執筆者に本誌記者として蘆谷蘆村、木村兎舟や口演童話家松美佐雄(まつみすけお)が記事を書いている。1巻3号に「婦人雑誌」創刊の予告あり。

39 少年の北海 第2巻第11号~第3巻第3号 1910/12/1~1911/4/10 3冊

北海道で初めての児童雑誌。1909年1月に「少年新報」として創刊。翌年3月に「少年の北海」と改称。主宰者は石井武峯で少年新報社(旭川)の発行だが、終刊は不明。投稿が大きな比重を占めていて、旭川市内だけでなく上川、空知、後志地方にも読者がいた。読者によるお伽会などが開かれていた。

40 少年文芸(東京) 1巻2号~1巻3号 1910/10/1~1910/11/1 2冊

東京の少年文芸社発行。表紙・川端龍子。執筆者に有本芳水や石塚月亭ら。投稿欄を14歳以上の第1部と14歳以下の第2部に分けている。記事中、黒戸素人執筆の当時の少年少女雑誌の概況を綴った文が興味深い。

41 少年文芸(奈良) 1巻1号~1巻2号 1914/1/1~1914/2/5 2冊

奈良県吉野郡の少年文芸会発行。編集発行者上田蘆亭(森蔵)。小説、お伽噺、新体詩、和歌、俳句、評論などの投稿誌。賞品として1等3円から3等30銭まで一覧表で掲載されている。その他、仙台日日新聞以下全国44誌が本誌を推奨しているとの記事がある。

42 新童話 2号～20号 1930/6/10～1931/12/10 10冊

旧満州（現・中国東北部）で、1927年大連の南満州教科書編集部に赴任した石森延男が発行。「日本唯一の子供のための純童話雑誌」と自負していた。毎号、石森延男や同人の童話、戯曲を載せ、児童作品の選者も石森が務めている。同時期の満州で寺田喜治郎による「コドモ満州」が出されていた。

43 台日コドモ新聞 1号～129号 1925/3/1～1927/11/27 129号

台湾日日新聞社発行。本紙の附録として、毎週日曜日に発行された。本紙附録のため、コドモ新聞のみの購読はできなかった。当時、台湾発行の新聞には漢文欄があるのが普通であるが、コドモ新聞は創刊から全文日本語で書かれていた。記事内容としては、読者の投稿を中心とし、日本各地、世界の出来事、論説、科学的な記事、算数や国語、ローマ字問題など、多岐にわたっている。

44 台湾子供世界 10巻5号～11巻2号 1925/9/7～1926/2/17 2冊

台湾子供世界社発行。発行人は吉川精馬。吉川精馬は『台湾子供世界』の他に四種類の雑誌を発行していた。『台湾子供世界』の表紙には「台北師範学校・有志お伽研究会・附属公学校研究会監修」とある。雑誌の内容は殆どが物語で占められている。児童の投稿は綴り方であるが数は少なく、物語の多さから児童向け文芸雑誌的色合いの強い雑誌である。投稿児童の学年からみて、高学年以上を対象としていたと考えられる。

45 台湾少年界 第1号～第4号 1931/12/6～1932/3/13 4冊

台湾健児社発行。発行人は楊天送。楊天送については未詳。本島人児童向けに楊天送が発行したことが、創刊号の挨拶文からわかる。どの号も漫画・お話・読み物が中心であるが、第3号・第4号には模擬試験問題、児童からの投稿作品も掲載されている。

46 セツボシ 3年9号～セツ星夏期童話読本 1925/8/1～1926/8/1 3冊

1923年の創刊。北海タイムス記者の田中正之が独力で発行していたという。当初は「子供新聞 セツ星」だったと思われる。第3巻第9号の編集・発行人は奥山平吉で、セツ星社（札幌）の発行。終刊は不明。セツ星童話会をつくり各地で童話会を開催。小野三男治、飯田広太郎、加清保なども会員。1926年には札幌は夏期童話学校を開催し、「セツ星夏期童話読本」を参加者に配布している。

| | | | |
|-------------------|-----------|----------------------|------|
| 47 (1040)函館の小学生 | 1号～133号 | 1923/7/5～1935/5/28 | 118冊 |
| 48 (1041)函館の小学生 上 | 134号～205号 | 1935/4/28～1941/4/22 | 70冊 |
| 49 (1042)函館の小学生 下 | 134号～205号 | 1935/5/25～1941/4/22 | 65冊 |
| 50 (1043)函館のこども 上 | 206号～215号 | 1941/4/30～1942/1/31 | 10冊 |
| 51 (1044)函館のこども 下 | 206号～217号 | 1941/4/30～1942/3/15 | 10冊 |
| 52 (1045)函館のこども | 218号～238号 | 1942/4/20～1943/12/25 | 21冊 |
| * ()内は雑誌ID番号 | | | 欠あり |

函館教育会が1923年7月創刊、1943年12月まで続き渡島管内の子どもたちに親しまれ

た。子ども達の作文、詩などの発表の場として生まれ、創刊時は新聞形態。後に雑誌形態となり、教師たちの童話、童謡、郷土的な読み物なども掲載。編集を担ったのは小学校教師達である。「函館の小学生」は、小学校が国民学校となった1941年に「函館のこども」と改称した。太平洋戦争の開戦後は、表紙、内容ともに戦意高揚色が濃くなっていく様子が読み取れる。20周年を迎えた1943年12月に終刊。

53 (1050)函館の小学生(戦後)1・2・3年用 創刊号～3号 1953/1/30～1953/4/20 3冊

54 (1051)函館の小学生(戦後)4・5・6年用 創刊号～3号 1953/1/30～1953/4/20 3冊

55 (1052)函館の小学生(戦後)4～6号 1953/6/10～1953/10/15 3冊

戦前の「函館の小学生」と同じ誌名で、1953年1月の創刊。函館の小学生社が2種類発行。編集発行人は福井弘三。戦前の「函館の小学生」のような「函館の子どもに読んでもらう函館の雑誌」を目指したが、6号で終刊。執筆者に戦前の「函館の小学生」で活躍の日下三蔵、みさき鐘介、樋口しげるなどの名がみられる。

56 ひばり 第1号～第9号(ポンプ座と花) 1946/5/20～1948/9/1 7冊

北日本社(札幌)発行の童話雑誌で、編集・発行人は加清保。9号だけ北方書院から、「ポンプ座の花」の誌名で発行されている。北海道童話会の会員である小学校教師たちの童話を掲載。同時期に発行された「おはなし」と似たような内容の雑誌である。

57 不思議の国 1巻5号 1925/5/1 1冊

発行人は小糸勝次郎。発行所金蘭社。表紙は清水良雄で4色刷。「少年少女娯楽雑誌」とあり、小島政二郎の連続長編冒険物語を始めとする物語中心の雑誌。童謡や野球戦闘術、頓知問答、キネマ便りなども掲載されている。読者の投稿欄から見て小学校高学年以上が対象と考えられる。

58 北海道小学生新聞 3巻2号～6巻4号 21冊

1922年に、北海道的な「総合的学習読本」を目指して創刊。北海道小学新聞社(札幌)の発行で、編集主幹は高坂久喜。当初は新聞形態で、後に雑誌形態となる。読み物などの他、作文、詩、図画などの投稿欄がある。作文は飯田広太郎、一時期だが図画は加藤悦郎が選評者として活躍。道内各地に少年記者がいて活躍。1928年には「毎月の読本」と改題、社名も日本教育社と改称。1930年には「北海道小学郷土読本」に発展的解消した。

59 北海道小学生の自由研究 第1号～第2号 1948/6/15～1948/10/7 2冊

千代田書院(札幌)の発行。編集・発行者は詩人・今井鴻象。この雑誌は、1947年の「学習指導要領」(試案)に位置づけられた「自由研究」の促進のために発行されたと思われる。誌名には北海道小学生とあるが、執筆者、研究発表者ともに北海道第一師範附属小学校の教師と生徒である。

60 我少年 1巻2号～2巻7号 1909/2/1～1910/7/1 8冊

編集・発行人林讓（旧字）。発行所は吉川弘文館内我少年会とある。総頁数 130 頁以上。執筆者に岡本綺堂、口絵に斉藤五百枝の名がある。誌名は「Our Boys」の訳だが、投稿欄に「W倶楽部」とあるので「わが少年」か「われ少年」のどちらかと思われるが、読み方不明。内容には「立志小説」「お伽講談」など少年向け物語が多い。

61 まず野(初級用) 5号 1929/10/10 1冊

62 まず野(中級用) 4号 1929/5/10 1冊

63 まず野(上級用) 5号 1929/10/10 1冊

発行人は石森延男。発行所は大連の満州学生読物研究会とある。毎月1回発行。16頁の小冊子で、高橋庸男のスケッチや杉野一湧の木版一色刷の表紙に手作り感がある。3・4編の詩、随筆を載せ、巻末に「トモシビ」と題した作品解説は石森延男の文と思われる。

64 松の緑 昭和7年12月号 1932/11/30 1冊

奉天春日尋常高等小学校の児童作品を集めた雑誌。当校の児童数 1480 名とある。昭和6年9月18日満州事変、翌年3月1日満州国建国宣言の渦中に出されたために「満州事変一周年を迎えて」等「時局に関する児童作品」が興味深い。昭和6年9月10日から翌年11月5日までの時局日誌も掲載されている。

65 ミソラ 14号 1932/10/5 1冊

全州公立尋常高等小学校学芸部発行。編集人は武藤紘。現在の大韓民国の全羅北道中部の市である全州(チョンジュ)の小学校の綴り方冊子。年1回発行。1年生はカタカナで4, 5行、2年生からはひらがなの綴り方を掲載。「愛国機朝鮮号」や、「日本少年」の付録の航空母艦「赤城」の模型作りなどの綴り方が載っている。

66 愛児と家庭(大連奨学会) 5巻5号～5巻11号 1930/5～1930/11 6冊

発行人・柿野三郎、印刷所・大連奨学会 印刷所は大連の春日小学校内におかれていて教師たちが発行した雑誌。親子で読む雑誌の形態を取り、毎月石森延男の童話を掲載した。親むけには栄養問題・家庭への希望など、子供向けには、童話・童謡の記事、その他、児童の投稿作品が掲載されている。

合計冊数 768冊